

図書館においてある本の中から
おすすめのものを選びました。
バラエティに富んだ本を紹介します。

「芸人と娘」

尾関高文 著



4歳児(娘)にやられっぱなしの芸人父。
ゆるいイラストも相まって、
笑えます。面白いです。

TEL0996-86-1111

TAKANOSU LIBRARY

町立

鷹巣図書館

「ネコになってしまえばいい」

著者 心屋仁之助



癒されたいなと思っている人の
心がラクになって、いつの間
にか笑顔になれるようなメッ
セージを紹介します。

TEL0996-88-6500

SASUE LIBRARY

町立

指江図書館

Pick Up publication

長島文芸

Nagashima Bungo
ながしまぶんげい

明神俳句会

着岸の渡船が人吐く秋の暮
秋澄むや豆腐屋のラッパ響きをり
夕さりの声をさがせば鶴渡る
子守女のもろ泣きしている秋の暮
運動会午後は白線引直す
赤帽が白帽もぐや運動会
改札に人波寄せる暮の秋
秋澄むや大聖堂の鐘響き
汐の香の微かに匂ふ暮の秋
青青と輝く島も冬に入る
秋澄むや神山を割る那智の滝
甌島近くに見えて秋澄めり

淵脇 護
山寄加代子
迫口 君代
筑前 初市
二階堂恵子
山田 哲夫
大堂 光幸
大堂 早苗
関 佳代美
坂口 静子
白男川孝仁
大堂 正弘

長島短歌会

出水野の穂しき冬を楽しまん啼きつつ空を巡る鶴
見ゆ
ダイケアの風船パレーに年忘る負けては笑ひ勝て
ばパンザイ
寒菊の固き蕾がゆるみたり香の煙が漂ふなかに
岩下 ち江
苔を生す電設碑にて想ひ出づランプに頼りたる島
の暮らしを
岩下 房代
月光の冴えぬて数多釣れしとふ貫ひし鳥賊は種々
に色変ゆ
榎平 頼子
前年は死産せし牛が今産みてうごめく仔牛を誂し
み見る
米尾 和子
毎年の賀状に干支のちぎり絵を作りて十年老ひて
倦まざり
坂之下典子
自然薯を掘りしと笑顔で玄関にいま亡き歌友の息
子立ちたり
中山タマエ

愛でをりし柿のもみじ葉赤々と今朝の風にて庭に
散り果つ
濱田美代子
舗装路に昨日の落葉生なまし葉裏返して時雨に濡
るる
浜畑 松枝

創生短歌会

あと幾年民宿の料理作れるや度の強き眼鏡に買い
替えにけり
竹之内重信
つわぶきの花咲きそめし郷里を友は去り行く田も
家も売り
野村 益信
老われを支えてくるる友のありいつ迄続くわれの
農業
村上 義彦
紫蘇の香の香る味噌汁味わいてわれの朝食楽しく
もあり
石原百合子
この冬の漬物にせん大根を夕映えの畑に吊し干し
ゆく
大塚 洋子
死亡記事の年齢と病名を拾い読む病みていつより
かわれの慣わし
宮元 司
つるし柿は日当る軒に吊されて古きがなかに新し
き柿
山下 学

一般作品

「短歌」
あらくれしところに「昼のいこい」聴くとたんに
和みゆく吾がころかな
宗方 清明
母の眼鏡にうつしにていると思も深きふるさと遠く
わが叔母は九〇過ぎてても畑仕事鎌持ち畦をさつそ
うと行く
小林 頁
寒に耐え氷雨に耐えてみじろがず蜘蛛に暫しの西
陽射したり
小林 繁
小春日の人なき庭に金柑のたわわ実りて父母の七
回忌
母木 良平
年取るや思い出すなど人生だやる気有てもどーに
もならぬ
町田 末則
「俳句」
淑氣満つ顔を上げたる始業式
協田 武志